

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

平成27年1月13日

編集：郡山市

JA 郡山市 (Tel. 921-0724)

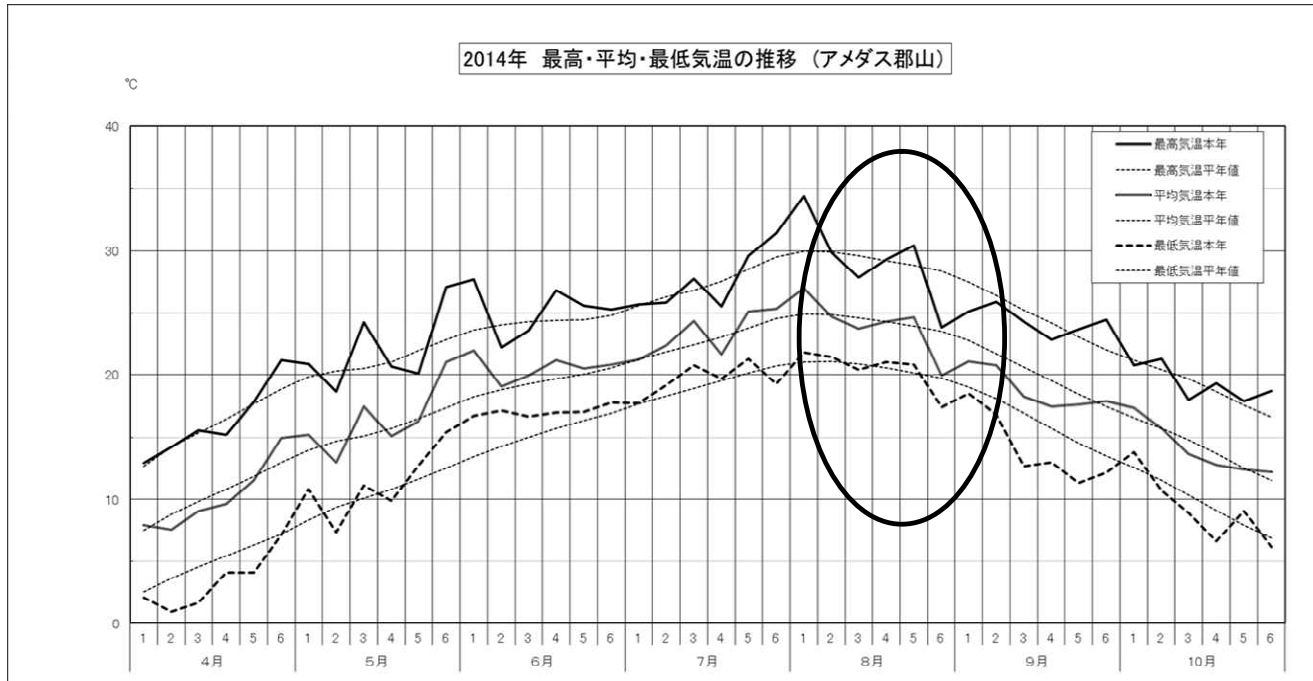
NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市農業振興課 TEL924-3761)

Vol.9 最終号 (生育調査ほ結果)

1 気象経過



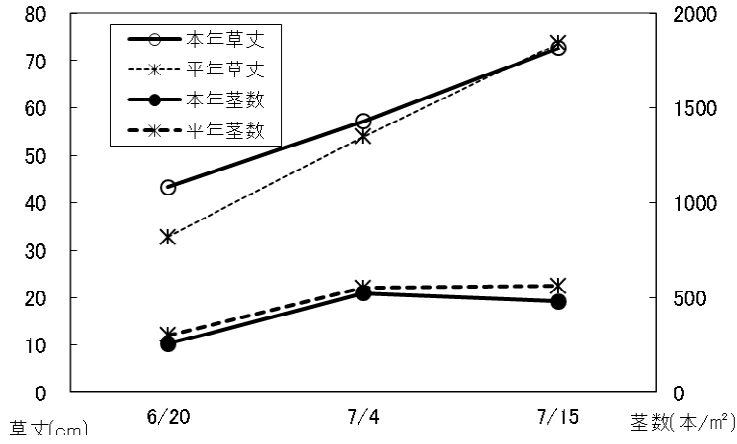
2 生育概況

- (1) 播種～育苗期：播種盛期は、4月16日で平年より1日早まりました。育苗期間は寒暖の差が大きく不安定な天候が続き、苗の不揃いや苗やけが目立ちました。4月6半旬から、一部でもみ枯細菌病の発生が見られました。
- (2) 田植期：田植盛期は、5月15日で平年より1日早まりました。活着は概ね良好でしたが、周期的に風の強い日があり、一部で植え傷みが発生しました。
- (3) 分けつ期：平坦部は、コシヒカリは草丈が平年並、茎数がやや少なく、ひとめぼれは草丈が長く、茎数が多くなりました。湖南地区は平年に比べ草丈がやや短く、茎数が多くなりました。葉色は平坦部がやや淡く、湖南地区は平年並からやや濃い状況でした。生育は、平年に比べ2日程度早まりました。6月30日に「斑点米カメムシ類注意報」が発令されたことを受け、防除の徹底を促しました。
- (4) 幼穂形成期：7月15日の生育調査の結果では、草丈がやや短く、茎数はコシヒカリで少なくその他品種では多い状況でした。葉色はひとめぼれでやや淡く、その他品種ではやや濃くなりました。幼穂形成期は、平年に比べ2～3日早まりました。
- (5) 出穂期：管内全体の出穂盛期は、8月8日で平年より3日早まりました。品種別の出穂期は、平坦部のコシヒカリが8月9日で平年より2日早く、ひとめぼれは8月3日、湖南地区のあきたこまちが8月4日で平年より3日早くなりました。8月10日の台風11号の影響により、一部で籾の褐変が目立ちました。
- (6) 登熟期：出穂期以降の日照時間及び気温が平年を下回り、登熟は緩慢になりました。平坦部は、平年に比べ稈長がひとめぼれで短く、その他の品種ではやや長くなりました。穂長は平年並からやや短く、穂数はコシヒカリは平年並でその他の品種はやや多くなりました。湖南地区は、平年に比べ稈長が短く、穂長がやや短く、穂数が多くなりました。
- (7) 刈取期：全体の刈取盛期は、平年並の10月11日となりました。10月4半旬に降雨が続いたため、刈取り終期は平年より3日遅い10月24日となりました。

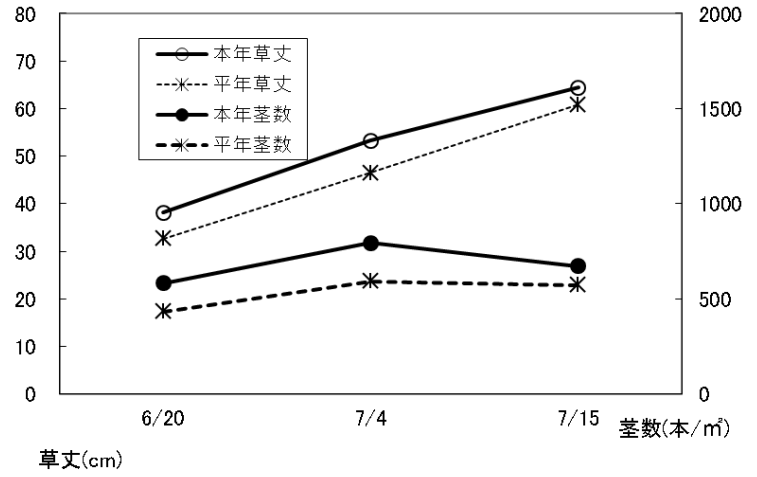
3 作柄及び品質

- (1) 作柄：東北農政局福島地域センターが公表した水稻の作柄は、出穂期以降の日照時間及び気温が平年を下回り登熟が「やや不良」となったものの、天候に恵まれ全もみ数が多かったことから、中通りの10a当たり収量は541kg、作況指数は104となりました。
- (2) 品質：JA郡山市の検査結果では、11月末現在の水稻玄米1等米比率は、92.7% (前年同期92.4%) でした。2等以下に格付けされた主な理由は、7割が登熟不良による青未熟粒でした。カメムシ類の発生は見られたものの、防除の徹底や色彩選別機の導入が進んだことから被害粒は2割となり、昨年度(6割)を大きく下回りました。

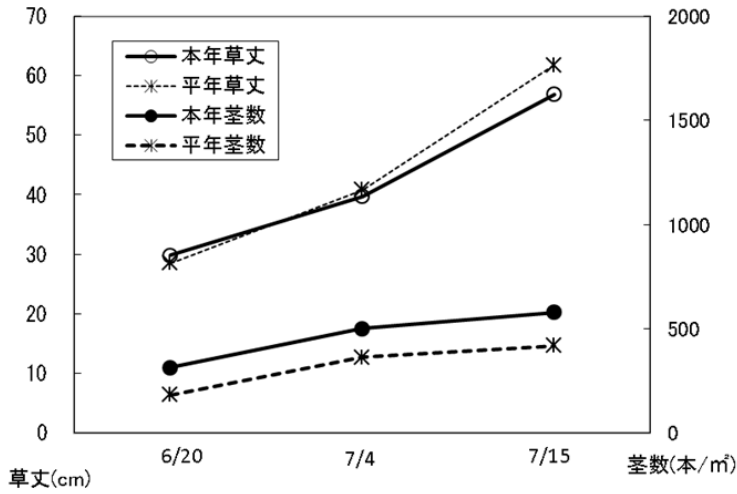
生育経過（コシヒカリ：大槻）



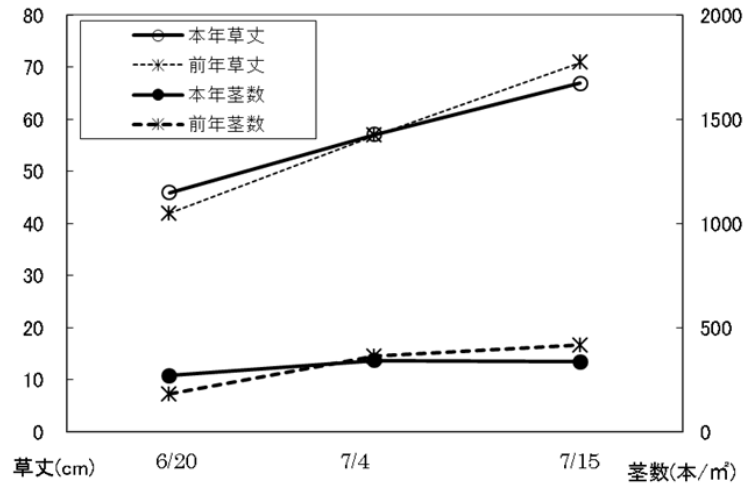
生育経過（ひとめぼれ：片平）



生育経過（あきたこまち：湖南）



生育経過（天のつぶ：西田）



4 生育調査ほ調査結果

- (1) コシヒカリはm²あたり籾数及び登熟歩合が平年を下回ったものの、千粒重が重かったため、精玄米重は平年よりやや多くなったと考えられます。
- (2) ひとめぼれは登熟歩合が平年を下回ったものの、m²あたり籾数が増加したため、精玄米重は平年より多くなったと考えられます。
- (3) あきたこまちは、登熟歩合が平年を下回ったものの、m²あたり籾数が増加したため、精玄米重は平年並になったと考えられます。

場所		品種	総重	わら重	籾数		精籾重	粗玄米重	精玄米重	千粒重	登熟歩合
町	地区		(kg/10a)	(kg/10a)	(粒/穂)	(100粒/m ²)	(kg/10a)	(kg/10a)	(kg/10a)	(g)	(%)
大槻	中ノ平	コシヒカリ	1750	768	84	327	857	706	669	22.4	76
		直近5カ年	1625	758	85	363	830	679	648	22.2	89
片平	谷地	ひとめぼれ	1562	649	60	368	839	694	672	22.8	85
		直近5カ年	1419	642	58	292	743	600	590	22.7	92
湖南	赤津	あきたこまち	1580	597	88	407	899	740	718	22.3	81
		直近5カ年	1644	686	90	347	917	741	724	22.2	91

*精玄米重はふるい目幅 1.80mm 以上で選別された玄米の重量

5 天のつぶ調査ほ調査結果

- (1) ほ場により 650kg~860kg と収量にばらつきが生じました。
- (2) 収量が低かったほ場の要因として、生育量（総重）の不足が考えられます。また、収量が高かったほ場の要因としては、生育量（総重）が大きく、籾数を確保したためと考えられます。
- (3) 天のつぶを栽培するにあたっては、有機質の施用による地力の確保及び、地力に合った施肥管理による生育量（総重）の確保が重要と考えられます。
- (4) 収量を確保するためには生育初期から幼穂形成期にかけての茎数確保が重要と考えられます。

場所		栽植密度	穂数	総重	わら重	籾数		精籾重	粗玄米重	精玄米重	千粒重	登熟歩合
町	地区	(株/m ²)	(本/m ²)	(kg/10a)	(kg/10a)	(粒/穂)	(100粒/m ²)	(kg/10a)	(kg/10a)	(kg/10a)	(g)	(%)
喜久田	前田沢	21.7	516	1975	832	70	361	1064	881	861	23.3	85
三穂田	野田	20.0	438	1709	779	69	304	871	728	719	22.6	91
西田	丹伊田	19.4	314	1500	667	82	259	786	658	653	22.9	96
日和田	北野	19.0	325	1918	773	98	319	947	777	736	22.9	91

*精玄米重はふるい目幅 1.80mm 以上で選別された玄米の重量